

# 平成 21 年度第 1 回みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会 議事録

日時：平成 21 年 6 月 12 日（金） 午後 2 時～午後 4 時

場所：緑区役所 2 階 第 2 会議室

出席：村井委員長、井上副委員長、松岡副委員長、市木委員、松浦委員、吉田委員、鈴木委員、小林委員、長嶋委員

（事務局：監物緑区福祉保健センター長、津田福祉保健課長、山本事業企画担当係長、林、児玉、井口、中丸緑区社協事務局長、草苧緑区社協事務局次長、浅木）

（その他福祉保健センター職員：西川高齡・障害支援課長、大庭こども家庭支援課長、間瀬保険年金課長、渡辺生活衛生課長）

欠席：中島委員

（敬称略）

## 内 容

### 開会前に

〈津田区長からのあいさつ〉

〈事務局から情報提供〉

- ・ 前回の委員会（H.21.3.3）において了承済みの推進委員会規約の一部改正を行い、規約の第 2 条において次期計画策定に関する条項を新設したこと、及び委員会の名称を推進策定委員会と変更したことを報告。
- ・ 今年度からみどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会の資料及び議事録を緑区ホームページにアップして、みどりのわ・ささえ愛プランの取り組みについて計画の推進に関する情報を区民の皆様にもわかりやすい形で伝えていくことを報告。
- ・ 6 月 1 日付けで 1 名委員の変更があり、霧が丘地域ケアプラザの小林委員が新委員となったことを報告（小林委員からあいさつ）。

### 開会あいさつ

- ・ 村井委員長よりあいさつ

## 議事 1 第 2 期みどりのわ・ささえ愛プラン策定準備について

### (1) 昨年度までの取り組みについて

- ・ 資料 1（各委員には平成 21 年 4 月に配布済み）を参考に、「みどりのわ・ささえ愛プランー地域での取り組み概況ーH20 年度版」について、各地区の取り組みとして掲載している情報について委員から感想を聴取。
- ・ 事務局から、平成 20 年度 区役所・区社協が協働で推進する事業等として実施した(1)エリアミーティング、(2)ステップ事業、(3)オトナの一期一会、(4)災害時要援護者把握支援事業（防災ささえあいカードの取り組み）等、平成 20 年度の取り組みの概略を資料 1 の該当頁から説明。

## 質疑・ご意見

吉田委員：地域での取り組み概況は、かなり詳細に活動している内容を記載しているように思えるが、冊子(案)の段階で東本郷地域ケアプラザのコーディネーターと話をしたときは、ずいぶん内容が抜けているように思えた。その後、追加をしたので、かなり細かく実施をしていることがわかる。しかし、他の地区は白紙の部分が多いので、本当に記載する内容がないのか、あるいは実際に活動していても内容が漏れているのではないかとも思えた。非常に参考になる冊子なので、次期に向けては、各地区で整理することも必要ではないかと思う。

松浦委員：エリアミーティングのメンバーの方に言われたが、地域の自治会等で実際にやっている内容がそちらの方に情報として伝わってなく掲載されていないということ聞いた。

市木委員：障害者団体（緑区心身障害者団体連絡協議会）の立場で参加しているので、個人的には、緑区全体の活動に関わっていることもあり、地域ごとの取り組みとして把握するには弱い部

分がる。また、オトナの一期一会の活動に参加させていただいているが、その中で感じることは、地域での話合いの深まりは大切なことだと思うが、地域同士の交流がもっと必要だと思う。前回のオトナの一期一会では防災ささえあいカードの取り組みで意見交換があったが、地域ごとの取り組み方には違いがあるように思えた。他の地域の方からみた意見も活用できるような機会を作ることが大切だと思う。

井上委員：長津田地区では、毎月月末に合同会議を実施しているので各自治会の情報は把握している。平成 20 年度は防災ささえあいカードの取り組みを 4 か所の地域防災拠点で実施して長津田地区として同時にスタートしようとしてきたが、1 拠点の代表者が自治会の役員ではなく、情報伝達がうまくいかず若干遅れた。2 年目に向けても課題を整理して取り組みを進めていきたい。

松岡委員：地域での取り組み概況の 68 頁掲載の子育てサポートシステムの運営は、基本目標 4－小目標 3 になっているが、ホットホームステイ・サポート事業と同じ箇所の基本目標 2－小目標 1 に掲載すべきではないか。また、この冊子は非常に厚いので、どうやって読みこんでいくのかがわかりづらい。もう少し内容を集約して、見やすくする工夫などを考えたほうが良いと思う。そうすれば、より「みどりのわ・ささえ愛プラン」についての PR ができるようになると思う。

長嶋委員：竹山地区では、自治会として福祉のことを議題にとりあげることが少ないので、反省している。自治会としても一緒に協力していきたいと思う。また、民生委員の方に対しても、もっと話を伺うべきだったことも反省している。暖かい気持ちで接することができるような雰囲気づくりを心がけていきたい。

小林委員：霧が丘の地域ケアプラザが去年の 4 月に開所するまでは、霧が丘地区では十日市場地域ケアプラザが利用されていたが、霧が丘地域ケアプラザができたことによって、地域における福祉保健の取り組みの活動拠点が、ケアプラザとコミュニティハウスに移ったため、部屋の数、スペースともに恵まれた環境の中で安定した活動ができるようになったことを聞いている。霧が丘地域ケアプラザは 1 年余りの開所間もない中で、何十年も取りくんでいる地域の方々と連携をとり、少しずつ教えていただきながら新たな地域展開が行われるようになってきたように思える。

鈴木委員：白山地区社協では、単位自治会の会長をはじめ、民生委員児童委員、ボランティア団体等全ての代表がメンバーになっているので、話の伝わり方もよく、地区の意見を吸い上げていくこともできている。資料においては、福祉関係の掲載が多いので、できれば自治会の視点も取り入れてもよいのではないかと思う。

村井委員長：このような資料はあらためて地域の評価として、客観的な視点で捉えるには不可欠な資料であり、広くあまねく可能な限り多くの人の目に触れることが重要になってくると思う。そうすることによって、ここに掲載されている情報の最新性や現実性を保証することにもつながってくると思う。また、この冊子が、何のためにつくって、どうやって使うのかが書かれてあれば、なお良いと思う。例えば、こんな時に、こんなふうに使えば、こんなことができる等、の使い方の記載を検討することと、また、それを広く募集してみるのも良いかと思う。

## 議事 1 第 2 期みどりのわ・ささえ愛プラン策定準備について

### (2) 平成 21 年度以降の取り組みについて

#### 〈第 2 期横浜市地域福祉保健計画の説明〉

- ・資料 2－1、資料 2－2 に沿って、平成 21 年 4 月に策定された第 2 期横浜市地域福祉保健計画の概要及び、第 2 期緑区地域福祉保健計画を策定・推進していくための考え方について、健康福祉局・横浜市社協がまとめた指針を説明。

#### 〈第 2 期緑区地域福祉保健計画の説明〉

- ・資料 3 に沿って、第 2 期みどりのわ・ささえ愛プランの策定について、第 2 期計画の(1)基本となる方針、(2)策定のための組織体制、(3)地区支援チーム、(4)計画の構成等について説明。

- ・資料4に沿って、第2期みどりのわ・ささえ愛プランの策定スケジュールについて、平成21～22年度末までの間で、(1)第1期計画の振り返り・評価、(2)第2期計画（区全体の計画・地区別計画）の策定までの行程を、みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会、地区別計画策定連絡会、地区別計画策定委員会、地区支援チームそれぞれの役割をとおして概略説明。

〈地区支援チーム(案)の説明〉

- ・資料5に沿って、みどりのわ・ささえ愛プラン地区支援チーム(案)として、地区別計画策定準備のために、区役所・区社協・地域ケアプラザで構成し地区を支援していくメンバー(案)を委員に紹介。

## 質疑・ご意見

〈第2期横浜市地域福祉保健計画の説明〉

村井委員長：第2期横浜市地域福祉保健計画は、市域のレベルの話ではあるが、実は区のあり方を示されている計画であると思う。小地域における地区別計画の策定は、横浜市の場合はケアプラザ単位、中学校区・連合町内会単位で地区別計画の策定を行っていくようだが、関西ではさらに小さくなって1,800～5,000ぐらいの単位で地区別計画を策定している地域もある。いずれにしても、関西の成功事例からみると、小さくすればするほどよりリアリティのある生活問題を話し合うことができ、声のかけられる範囲で身近な問題を共有できている。しかし、市域で考えるべきこと、区域で考えるべきことも必要であり、小地域で解決できれば全て解決できるわけではないと思う。また、横浜市の先行区で問題となっているのは、小地域の推進母体はどういった人たちで構成していくのが課題となっているようである。地域の大原則として地域に同意を得た中で進めていかななくてはならない問題であり、緑区として小地域福祉保健計画を推進していくためには、中学校区・連合町内会単位の中で、どのような方々で構成していくかをじっくりと考えていただきたいと思う。

長嶋委員：いただいた資料（第2期横浜市地域福祉保健計画の内容）は、区内の高齢者の方々に1枚ずつ配布してはどうか。

事務局：広報よこはま市版7月号において概要版として掲載される予定です。広報は全戸配布なので各世帯に行き渡ることになります。

〈第2期緑区地域福祉保健計画の説明〉

井上委員：地区懇談会で説明に要する時間と内容としてはどのようなものを用意する予定でしょうか。

事務局：今年度は全地区でお話しする機会をいただいて、みどりのわ・ささえ愛プランにおける今までの取り組みと、第2期計画の策定準備を進めていくことについての概略をお伝えすることになっている。ボリューム的には、スライドで10分ぐらいの内容で、第1期計画の推進を中心に基本目標1～5に沿った地域の活動を視覚的にわかりやすく編集したもので説明していきます。

村井委員長：地区別計画の策定は、専門家から見ても有効性は高いと思う。一方、大きな問題としては地区別計画を策定した人が、推進母体になることは決して少なくない。そういった中で言うと、12～13名で作ってしまうと狭い世界で排他性が生じてしまって、担い手意識が高まる反面、後から入りにくくなる状況になり、それが5年間も続くことになる。それを調整する仕掛けとして、さらにその下に部会をつくって（高齢部会、障がい部会等）サポーター制度を作ったところもある。提案としては地区別計画を作る際の、メンバー構成は地区社協にも期待したいが、例えば、連合自治会の福祉部との連携、民児協、小学校、中学校、こども活動系の支援団体等、地域に影響を与えられるメンバーとして、もしくは地域から推薦を受けて承認されるメンバーを今の段階で少しでもイメージをしておくことが必要になってくると思う。

吉田委員：小地域の地区別計画ができることは、とても良いことだと思うが、市計画があって、区計画があり多岐に渡った内容となると、地区別計画の策定においては、多くの項目を計画することは困難であると思う。したがって、地区の実情に応じた実現可能な内容にすることが必要であると思う。そうすれば、各地区の連絡会においては実効性のある情報交換もできると思う。

#### 〈地区支援チーム(案)の説明〉

村井委員長：地区別計画策定を進める上で、区からマニュアルを用意する予定はあるのでしょうか。先行している事例からみると地区で委員会を組織した後で委員さんは何をしたらよいかが見えなくて、何をしたらよいかという話合いから始まってなかなかやるべきことに辿り着けない状況が続いて、フラストレーションがたまっている例がある。地域で話合いを進めていく上でのモデルとしての概略マニュアルがあるとわかりやすいと思う。

事務局：必要なものであると認識しているので、現在、作成に向けて作業を進めています。また、7月頃には地区支援チームの立ち上げに向けた研修も企画している。

村井委員長：是非、地区支援チームだけではなく、委員さんに対しても、ひとつの考えとして提示してみてはどうか。

#### 議事2 第2期計画策定のための準備調査(仮称)〈区民アンケート〉について

- ・資料6に沿って、今年度は、第2期計画策定のための準備調査(仮称)〈区民アンケート〉を行い、第1期みどりのわ・ささえ愛プランの振り返りと評価を行い、第2期みどりのわ・ささえ愛プランの策定に反映していくための基礎資料として活用していくことを説明。資料の中で、調査項目等については、現在、事務局で検討中であることを伝達。

#### 質疑・ご意見

長嶋委員：「今、一番困っていること(福祉の困りごと)は何ですか」という質問があったら良いと思う。それぞれ家庭では一人暮らしで困っている、電話もかけられない等あると思う。

松岡委員：「自分が何をやりたいか」という質問はどうか。やってもらうだけではなくて、自分には何ができるのかについて、聞いてみたい。

長嶋委員：防犯・防災の関係では、安全でいたい安心でいたいといいながらも、どうやって安心でいられるかの考えも聞いてみたい。

市木委員：防災の関係で、個人情報に関して自分がどう思うか。つまり、個人情報については、昨今の問題として、出さないということが当たり前のような世の中になりはじめたが、地域で名簿を作ってささえあいの取り組みを行うときにそれらを出すことが難しくなっているようだが、実際の取り組みにおいて個人情報の取り扱いについてどう考えているか住民の意識を聞いてみたい。

村井委員長：地域福祉保健計画の趣旨から言うと、このアンケート項目は最終的には委員が意見を出して完成させることが必要だと思う。事務局主導で完成した結果だけに対して意見をもらうのはいささか危険だと思う。また、第1期計画の策定のときに関わってくれた策定委員にも可能であれば、意見をお伺いするのも良いと思う。

事務局：次回の委員会で意見をお伺いするのでは間に合わないので、委員さんに対しては、アンケートの内容がある程度、固まった時点で意見をお伺いすることを考えている。

村井委員長：例えば、事務局が作成したアンケートのたたき台を提示して、試し回答と追加項目の必要性としてのご意見をいただければ、アンケートのプレ調査にもなると思う。

井上委員：民生委員児童委員協議会、保健活動推進員、地区社会福祉協議会からも意見をいただいて内容を検討してみてもどうか。

村井委員長：地域での取り組み概況(冊子)の担い手と位置づけている人はアンケートの調査対象にならないのかどうか気になる。大切なことは、この人たちにとっても気づいてもらうチャンスであると同時に、一般の人たちとの集計の違いも参考になると思う。

#### 閉会あいさつ

- ・中丸緑区社協事務局長よりあいさつ

#### 【次回開催日程】

日時：平成21年9月30日(水) 10:00~12:00 緑区役所2階 第1会議室で開催予定